

消化器内科

## 拡大内視鏡とは

国吉病院  
院長 国吉 宣俊 さん



現在市販のデジタルカメラにはズーム機能が搭載されています。内視鏡にも従来の内視鏡と太さや茎状をほとんど変えずに約90倍のズーム機能を搭載したものがあり、拡大内視鏡と呼ばれています。

ズームレバーを押すだけで瞬時に拡大観察が行え、粘膜表層の構造が観察されます。拡大観察の有用性は、正常な粘膜なのか、または今後がんになるようなポリープなのかを判断することができます。従来であれば組織の一部を採取して腫瘍・非腫瘍を鑑別してい

ましたが（生検と呼ばれ診断には4～5日の時間を要する）、拡大観察によって腫瘍・非腫瘍の鑑別がその場で判断できるようになりました。

また、拡大の有用性として「がん」が内視鏡的治療で完治が期待できるかどうかの判断もできることです。つまり粘膜の表面を拡大することにより、がんの深さ（深達度）がある程度判定できるようになったわけです。例えば大腸の場合、大腸の表面構造を拡大観察するとピットパターンと呼ばれる腺管開口部

が観察され、その構造によって、がんの診断と深達度の診断がほぼ確実に判断できるようになっています。同様に食道がんや胃がんも拡大観察によって治療切除可能かどうか判断できるようになりました。やみくもに取って、がんが取りきれないから外科的に追加切除をするようなことはほとんど避けられるようになっていきます。つまり拡大内視鏡によってかなりの確率で正確な深達度診断ができるようになりました。

最近の内視鏡治療技術の進化により早期のがんの一部は、開腹手術でなくても完治が望めるようになりました。つまり拡大内視鏡は、がんの診断と深さの診断ができる内視鏡の位置付けとなっています。

### 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】消化器内科・循環器内科・消化器外科・緩和ケア内科・整形外科 他